

大豆(フクユタカ)

長崎県での特産エリア
諫早市、杵岐市、波佐見町、五島市

生産量：572t(平成23年度)
農林水産省統計部「作物統計」調べ

旬カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月



原産地

中国中央部とする説や中国東北部に紀元前11世紀ごろ現れたとする説などがあります。

日本への伝来と歴史

中国では4000~5000年前から大豆が栽培されていました。日本でもすでに弥生時代には栽培されていたと考えられています。奈良時代に入ると中国との外交も盛んになり、みそやしょうゆの加工方法も伝わってきました。その時代の古い書物にも豆のことが書かれています。平安時代には、大豆は稲に代わる税金としても納められていました。納税記録からは、当時、西日本を中心に大豆が栽培されていたことがわかっています。

全国に広く栽培が始まったのは、鎌倉時代以降のようです。そのころ広まっていた仏教では、肉食が禁じられていたため、大豆は重要なタンパク源でした。その後、大豆の栽培が日本全国に広まり、それとともなって加工品もふえ、日本人にはなくてはならない食材になっていったのです。また、当時の人々にとって、大豆がいかに大切なものであったかということは、「大豆」という名前からもうかがい知ることができます。

主要産地の推移

長崎県では1954年の7,670haをピークに1974年の827haまで全国と同じように作付面積が急減し、1988年に1,880haまで持ち直した後、緩やかに増減しながら2010年には509haの作付けとなりました。

本県における近年の主要産地は、諫早市、波佐見町、杵岐市、五島市で、主に水田転作作物として作付けされています。

名前の由来

古代の中国では、大豆は大型の豆、小豆は小型の豆という意味で使われており、単純に大きさを指していました。ソラマメなど大型の豆があるにもかかわらず、ダイズが「大豆」と呼ばれるようになったのは「大きい豆」ではなく、「大切な豆」の意味だと考えられています。

長崎県における近年の大豆主要品種

品種名	奨励品種採用期間	作型
ホウギョク	昭和30~平成6年	秋大豆
コガネダイズ	昭和33年~現在	夏大豆
フクユタカ	昭和56年~現在	秋大豆

主要農作物奨励品種特性表より

長崎県における主要な品種

豆腐原料として主に「フクユタカ」が生産されています。諫早市森山町が最も生産量が多く、次に杵岐市です。

播種の様子



収穫1カ月前の様子(枝豆)



収穫の様子



※参考文献

- ・「長崎県農林産物の伝来と歩み」平成25年3月
長崎県農林技術開発センター
- ・「たべもの・食育図鑑」群羊社

※取材協力：JA全農ながさき